
超クロスオーバー物語!!

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超クロスオーバー物語！！

【Nコード】

N39030

【作者名】

ターザン

【あらすじ】

プリキュア、仮面ライダー、ウルトラマン、スーパー戦隊をベースに色々クロスオーバーさせる作品！！

その1 小々田コージの楽しいパルミエ復興計画（前書き）

キャラ崩壊注意！！

第1 プリキュア5日和

その1 小々田コージの楽しいパルミエ復興計画

コージ「エターナルとの戦いで忘れてたけど、復興中のパルミエ王国がそろそろ直ってる頃なんだよなあ楽しみだ・・・ひどくござっぱりしてるううう！？ちよつと大工さん、パルミエ王国復興してないような、ていうか全然復興してないでおまんがな。」

大工「パルミエ王国ならまだまだですよ、だって王子お金シュークリームに使っちゃって僕一人しか雇ってないじゃないですか。」

コージ「良いだろ別に。」

大工「良いですけど、あと半世紀はかかりますよ？」

コージ「えええ！？困るよそれ！？もう出来てると思ってのぞみに招待状出しちゃったよ！？」

夢原のぞみの家・・・

シロップ「郵便ロプ！！」

のぞみ「ああ！ココからだ、どうしたんだろう？？」

「のぞみへ

パルミエ王国が復興しました、ざまーみる、シュークリームを持ってこい、良いシュークリームを持ってこい・・・ココ
PS：焼き肉を何回もひっくり返していると旨味が落ちる。」

のぞみ「むかつく、パルミエ王国があんまり時間ないからちよつと

見たらすぐ帰ってこよう、2秒くらい見て。」

.....

ココ「とりあえず小屋でも良いから作るココ!！」

大工「小屋で良いんですか？」

ココ「急ぐココ!!明日までに作るでココ!！」

翌日

のぞみ「ココに会うの久しぶりだなあ、あつシュークリーム忘れた、まっその辺の木の実で良いか、後塩も少々、手紙だとこの辺だよね
パルミエ王国・・・これじゃ無いよねパルミエ王国。なんか書いてるけど。」

「パルミエ王国」

のぞみ「私はこれがパルミエ王国だなんて信じないよ、ここにココ
がいたら別だけど・・・」

ああああああ
♪

のぞみ「いったあああああ!?!なんか歌ってるしギターの位置低
っ!？」

コージ「あつ、のぞみ待ってたよ弾き語りしながら、」

のぞみ「弾いてなかったよ!！」

コージ「実は弾けないんだよ、ついさっきはじめたばかりだから。」

のぞみ「それなのにそんなに誇らしげにぶら下げてるの!？」

コージ「うるさいなあ、全く・・・ギターなんて止めてやるよおおおおお!！」

ガシャン!!

のぞみ「もう止めたああああ!？」

コージ「さあさあ復興したてはやほやのパルミエ王国だよ、ちよつと変な匂いするけど入って入って・・・あつ待ったシュークリームは持ってきたかい？」

のぞみ「やっぱりいる?」

コージ「いりまくるよ!!タダでパルミエ王国に入ろうだなんて図々しいにも程があるよ!？かたはらいたいよ!!」

のぞみ「じゃあはい。」

コージ「こっちはこれだけが楽しみであああああお前・・・」

・・・

のぞみ「謝るからココ、元気だしてよ。」

ココ「木の実ってココ・・・塩ってココ・・・」

のぞみ「それにしても良い所だね、落ち着きがあつて・・・」

ココ「そんなに良いココ!？」

のぞみ「あつ、機嫌直つた。」

ココ「のぞみはなかなか王国を見る目あるココ。」

のぞみ「王国じゃないよ!！」

ココ「お菓子食べるココ? 変な匂いするけどココ。」

のぞみ「いらないよつ ああ! ! 臭い! ! 魚臭い! !」

ココ「えええ美味しいのにココ、ムツシャムツシャまず! ? ブフオ
! !」

のぞみ「不味いの! ?」

ココ「飲み込めない程不味いココ、シークリームの食べられない
ところみたいな味がするココ! ! のぞみお茶入れて台所あるからコ
コ! !」

のぞみ「えゝ、私客でしょ? ココが入れてよ。」

ぼふっ! !

コージ「ほざきやがれ! ! 僕は王子だぞ! !」

のぞみ「まったく偉そうに・・・」

コージ「偉いもん。」

ジョー

のぞみ「もう人使い荒いんだから、壁とかミシミシいつてるし大丈夫なの？このパルミエ王国、あつ！お風呂場だ、なんでお風呂場や台所がパルミエ王国にあるの？中はどうなってるんだろう？」

ガチャ

???「夢原・・・イザム!!」

・・・・・・

のぞみ「ココ!!ココ!!お風呂場に変な人が!!」

コージ「ん？ああ、ナッツ王子だよ、あの人にはお前の事教えているよ？」

のぞみ「名前間違えられたよ私!!イザムって呼ばれたよイザムって!？」

コージ「間違えたんだな。」

のぞみ「何で間違えるの!？」

コージ「お前の名前覚えらいんだよお!」

のぞみ「覚えやすいよ！！歴代プリキュア人気投票でベスト5に入ってるの熟知してるよ！！」

コージ「ああもおわかったよ！！後で訂正しとくよチャップリンとかで良いだろ？」

のぞみ「良いわけないでしょ！？」

コージ「ああもおうるさいなあ！！早くお茶くれよお茶！！このお茶み！！」

のぞみ「誰がお茶みだ、ああむかつく。はい、どうぞ。」

コージ「モーレッツに指入ってるううう！？さすがは伝説の戦士プリキュアに選ばれただけの事はある奴だ、露骨に嫌な嫌がらせてきやがる。」

のぞみ「じゃあ私はこれで。」

コージ「え！？帰るの、泊まっていきんしゃい、布団も用意してあるぞ？ちよつと変な匂いするけど。」

のぞみ「何で何もかも変な匂いするの！？泊まらないよ！！」

コージ「ええー、枕投げを楽しみにしてたんだぞ？ねえ、お願いだよ、一生のお願い。」

のぞみ「わかったよ、じゃあ枕貸して。」

コージ「はい。」

「のぞみ、いくよ、はい。じゃあそういうわけでバイバーイ。」

「コージ」まってええええええ！どこにこんな寂しい枕投げがあるんだ！？パスってお前！？こつちは一生のお願い使ってたよ！！おい！！もつと本気でガンガン来んかい！！！」

「でもココ、思いっきりやったら枕でも痛いよ?」

「コージ、見くびるな！！枕だろうと木の実の種だろうと華麗避けるよ！！」

のぞみ「そう？じゃあ遠慮なく……はい！」

ボグツ！！

ココ「オオオオオオオオ！？」

今日のココ

のぞみ「当たってるじゃん大丈夫？ココ。」

ココ「木の実はダメココ、種は……」

のぞみ「だって避けるって言うから。」

ボ
フ
ッ
!
!

「わかったよ、何でもありで良いんだね？」

のぞみ「もう帰って良い？」

コージ「だったらこっちにも考えてがあるぞコラア、思い知れ！！
湯のみまっしぐらアタック！！」

のぞみ「あぶなっ！？」

ヒヨイ

ココ「速いココオオオオオ！？」

のぞみ「ゆ、湯のみが跳ね返って当たった。」

ポフッ！！！！

コージ「許さん、マジで許さないぞのぞみ・・・」

のぞみ「えゝ、今はココの自業自得じゃない。」

コージ「黙れ！！僕の辞書に自業自得なんて言葉ないんだ！！」

のぞみ「なんて自分勝手な辞書なお！？」

コージ「自分勝手なんて言葉もない、くらいやがれ！！超必殺・パ
ルミエ王子アタック！！」

のぞみ「暴れないでよこんなところで！！」

コージ「王子の偉大な権力を知れええええ！！」

ヒョイ

コージ「あつ、避けられた。背中ぶつたああ!？」

ゴゴゴゴゴッ

のぞみ「ん?何?地震?」

コージ「しまった!!今の衝撃でパルミエ王国が崩れそうだ!!」

のぞみ「崩れそうなのおお!？」

コージ「実は大急ぎで作ったから柱とかユルユルなんだよ!!」

のぞみ「ユルユルなのおお!？」

コージ「ああ!!こんなんならのぞみに伝説の技使わなきゃ良かったああ!!」

のぞみ「それよりココ!!早く外に逃げ・・・」

グシャン!!コージ「モバイル!!」

・・・

ココ「のぞみ、ココは諦めないココ・・・頑張つてギター、続けるココ。」

お
わ
り

その1 小々田コージの楽しいパルミエ復興計画（後書き）

ではではアンケート実施!!

何とクロスオーバーさせてほしいか募集中!!

その2 山吹祈里と獅子走の獣医への道!! (前書き)

沢山の要望ありがとうございます、アニメにとらわれずにゲームの「テイルズ」「バイオハザード」やドラマの「西遊記」や「ごくせん」などでも受け付けています。

今回ナレーションはガオレンジャーっぽくしました。

その2 山吹祈里と獅子走の獣医への道！！

ある青空の広がる良い天気の日でした。

祈里「今日は開校記念日だから私は学校休みでもラブちゃん達は学校なのよねえ・・・あつ、鳥が！！」

祈里は傷つき倒れている小鳥を見つけたのです。

祈里はそつと小鳥を抱きかかえます。

祈里「どうしよう・・・家は遠くてとても間に合わないわ。」

そこにある青年が現れます、それは獅子走でした。

走「祈里ちゃん！！」

祈里「ああ、走さん！！小鳥が・・・」

走「ひどいケガだなあ、でも大丈夫。」

走はしよっていたカバンから救急箱を取り出し、小鳥を治療します。

走「こら！！暴れるな。」

祈里はキルンを使い小鳥の声を聞きます。

祈里「あまり乱暴はしないでだつて。」

走「わかってる、消毒でちょっと痛いだけだから。」

そして小鳥は治療され、空へ飛んで行きました。

走「祈里ちゃんは動物の言葉がわかるの？」

祈里「はい、もつともこのキルンがいなきゃダメなんですけど・・・
走さんは獣医なんですか？」

走「うん、まだ若いけどね。」

祈里「そうですか。」

祈里は何だか、うかない顔をしていました。

走「どうしたの？」

祈里「私将来お父さんみたいな獣医になりたいんです、キルンを使えば動物の言葉はわかるけど・・・いつまでもキルンに頼ってたらダメだと思って。」

走「・・・そうか。」

祈里は自分の力で何とかならないかと悩んでおりました。

走「よし、獣医になるために特訓しよう!-!」

祈里「とっ、特訓!？」

走「どんな動物の言葉がわかるように特訓しよう。」

祈里「動物園にでも行くんですか？」

走「もつと良い所。」

祈里は頭の整理が出来ませんでしたかとりあえず走についていきました。

.....

走「はい、到着。」

祈里「えっ.....ここって.....」

そこにはガオレンジャーのパートナーのパワーアニマルが暮らす島でした。

祈里「動物.....なの？」

走「動物だよ、失礼だな、ガオライオン!!」

すると巨大な赤いライオンのパワーアニマル・ガオライオンが現れました。

「ガオオオオオオオオ!!」

祈里「え」と.....」

走「悩みがあるなら俺も協力するって。」

祈里「へえ（わかるんだ）。」

こうして祈里の動物勉強がはじまりましたが・・・

「ガオオオオオ!!」

祈里「どうしたの？え〜と・・・」

走「大丈夫、あくびだよ。」

祈里「あつ、そう・・・」

なかなか上手くはいきませんでした。

・・・

走「大丈夫？」

祈里「無理っぽい・・・」

祈里は動物と向き合えないストレスから少し体調を崩してしまいました。

祈里「こほっ！こほっ！」

走「大丈夫？」

祈里「・・・私獣医に向いてないのかな？」

祈里は重度に病んでおりました。
そこに1羽の小鳥が木の実をくわえて飛んできました。

走「あつ、あの時の小鳥。」

小鳥「チチチ、ピッピッ（あの時はありがとう、御礼だよ）。」

祈里「私何もできなかったのに御礼だなんて・・・あれ？」

走「おっ!!」

そうなのです、祈里はパワーアニマルと接しているうちに動物の言葉を感じ取れるようになっていたのです。

小鳥「ピッピッ（良かったね）。」

祈里「ありがとう、小鳥さん、走さん。」

走「これで一安心だな。」

おわり

その2 山吹祈里と獅子走の獣医への道!! (後書き)

アンケート募集中!!

その3 戦国！？（前書き）

どうぞ

その3 戦国!?

なぎさ、咲、のぞみ、ラブはつぼみの家にお泊まり会を開いていた。
そして目を覚ますと……

なぎさ「……………」

咲「あ……………」

のぞみ「うん……………」

ラブ「ん……………」

つぼみ「え〜と……………」

戦国時代になってましたあ!!

なぎさ「明るく言っな!!」

つぼみ「ななな何で私の家が戦国時代に!？」

ヒュンヒュン!!ザクザク!!

咲「うわあ!!矢が降ってきたあ!？」

のぞみ「とととりあえず逃げるぞお!!けってええええい!!」

ラブ「また降ってきたあ!？」

「きゃあああああああ！！！！」

一同は逃げます！！

死にたくないから！！

そこに赤い服と青い服を着た男が

「……おのれ貴様！！懲りずに親方様の領地を！！」

「……相変わらずhotだね。」

なぎさ「あの青い服の人の兜に、赤い服の人の家紋って！！」

咲「歴史上の人物の！？」

のぞみ「え〜とえ〜と！！」

ラブ「あつ！！真田政宗と！！」

つぼみ「あつ！！伊達幸村です！！」

「ちがあああああう！！」

「……私は真田幸村！！」

「……俺は伊達政宗だぜベイベ！！」

つぼみ「そうでした！すみません！！」

幸村「お主ら変わった格好をしとるな？……まさか新たな敵！？」

政宗「weight!!ladyにそんな物騒な物を向けるなんてcrazyだぜ?」

幸村「だまらつしゃい!!異国の言葉をまぜる不届き者め!!」

政宗はなぎさ達をかばうが咲、のぞみは幸村軍に捕らえられた。

のぞみ「えええええ!?!」

咲「何で!?!」

幸村「みななもの!!ひとまず撤収じゃあ!!」

幸村軍は引き上げてしまった。

つぼみ「のぞみさんに咲さんが!!」

政宗「落ち着けよ、ひとまずtea timeとしようぜ。」

なぎさ「こんな時に!?!」

ラブ「何でこんな事に・・・」

・・・

幸村「気づいたらここにいただとお!?!デタラメをはくなあ!!」

のぞみ「デタラメじゃないもん!!!!」

咲「本当なんです!!」

幸村「ええい！！はけ！！はかんかあ・・・」

ドゴン！！

幸村「がは！？」

幸村は壁に叩きつけられる。

???「幸村！！女相手に手荒な真似はするな！！」

幸村「はっ！？親方様あああ！！申し訳ございません！！」

のぞみ「あっ！！え〜と・・・よく日曜日で聞くんだよなあ声。」

咲「武田信玄！！」

幸村「貴様らあ！！親方様を呼び捨てにするとはなんたる・・・」

ドゴン！！

幸村「ぎゃは！？」

信玄「お前はいちいち反応するな！！・・・すまないな、改めて武田信玄だ。」

咲「はっ、はじめまして。」

・・・

政宗「未来か、俺は信じるぜ!!」

ラブ「本当に!？」

政宗「all right!!ウソって根拠がないからな。」

つぼみ「未来から来たという根拠はどうなんですか？」

政宗「実際にそう言ってる奴がいる、それだけだ。」

なぎさ「へえ」。

するとなぎさは政宗の刀に疑問を抱いた。

なぎさ「あの・・・何で刀が六本も？」

ラブ「本当だ、普通多くて二本だよな？」

つぼみ「そうですね。」

政宗「確かに俺は少しは変わってるかもな!!」

すると政宗は片手の指で刀を三本握り鞘から抜いた。

つぼみ「ろっ!?!6刀流ですか!？」

政宗「YES!!俺の知り合いは口に刀くわえて3刀流だから・・・
・対抗したぜ。」

ラブ「刀って重いんだよね？」

なぎさ「うん、それを指で・・・まさに・・・」

「！！戦国BASARA！！」

・・・

幸村「親方様あああ！！」

信玄「幸村あああああ！！」

ドゴツ！！バキッ！！

幸村「親方様あああああ！！！！」

信玄「幸村あああああ！！！！」

幸村「親方さ、まああああ！！」

信玄「幸む、らあああああ！！」

のぞみ「何故に殴り合い！？」

咲「なんか天下最強を決めるんだって。」

幸村「お・・・親方様あああああ！！」

信玄「ゆ・・・幸村あああああ！！」

ガシッ！

のぞみ「今度は激しくハグしたよお！？」

咲「うゝん・・・絆なのかな？・・・まさに・・・」

「！！戦国BASARA！！」

・・・・・・

????「政宗様。」

政宗「おお、小十郎か。」

つぼみ「あなたは？」

????「私は片倉小十郎と申す、政宗様、彼女達は元の時代に戻るかもしれません。」

政宗「What！？本当か！？」

・・・・・・

幸村の部下「幸村様、彼女達を元の世界に戻す事ができるかもしれません。」

幸村「何！？真か！？」

・・・・・・

つぼみ達が戦国時代に来てしまったのは、伊達政宗と真田幸村の力が激しくぶつかり合い時代を超えてつぼみ達に舞い落ちてしまったためだった。

そして伊達政宗と真田幸村はつぼみ達を引き連れて先ほどの場所に戻った。

幸村「くっ、おのれ伊達政宗!!」

政宗「NONO、今は戦いに来たんじゃないだろ？」

つぼみ「お互いに技をぶつけてほしんです!!」

のぞみ「元の世界に戻らないと!!」

政宗は軽く頷き

幸村はしぶしぶ頷く。

政宗「行くぜえええ!!」

幸村「親方様ああああ!!」

ガキン!!

ゴゴゴゴゴッ!!

ついに力と力がぶつかり合いなぎさ達に流れ込む。

.....

つぼみ「はっ!？」

気がついた時には朝になっており、つぼみの部屋にいた。

なぎさ「夢だった・・・のかな？」

咲「多分・・・ね？」

ラブ「つぼみ?どうしたの？」

つぼみ「・・・疲れました。」

おわり

その3 戦国！？（後書き）

次回投稿までアンケートは一時中断します。

要望を整理するので

その4 雑談トーク

「だから・・・大シヨッカーは俺が潰す!!」

・・・

のぞみ「・・・・・・・・」

映司「・・・・・・・・」

アラタ「・・・・・・・・」

士「何してんだ？」

のぞみ「あっ!!士先生!!」

アラタ「今、劇場版仮面ライダーディケイド オールライダー対大シヨッカーを見てんだ。」

映司「士は良い言葉を本当に残して敵を倒していくね。」

士「まあな。」

のぞみ「・・・ねえ」

士「どうした？」

のぞみ「いつからベルトが喋るようになったの？」

映司「ああ、確かにね。」

士「さあな。」

アラタ「じゃあ天装術で見てみよう。」

・
・
・
・
・
・

アラタ「ベルトが喋るようになったのは平成の仮面ライダーからだね。」

士「ベルトではないが仮面ライダーの装備が喋るようになったのは龍騎からだな。」

「ファイナルベント」

士「そして仮面ライダー555からは本格的にベルトが喋るようになったな。」

「standing by complete」

のぞみ「携帯電話を使う次世代な仮面ライダーだね。」

「turn up」

アラタ「そして仮面ライダーブレイド、トランプをバックルに使って変身するライダーだね。」

映司「しゃべり方に問題があったけどね。」

「s o a r d f o r m ! !」

映司「そして今でも大人気の仮面ライダー電王。」

アラタ「パスをベルトにかざして変身するライダー、ギャグも満載だったね。」

「キバツテ、行くぜ!!」

のぞみ「え〜と、次が仮面ライダーキバ、ベルトに使うアイテムが生きてるんだよね!!」

士「ああ、生きて人格を持つベルトは今でもキバだけだ。」

「カメンライド!! デイクライド!!」

士「そして、俺仮面ライダーデイクライドだ。」

映司「さっすが平成ライダーの力を受け継いだ戦士、かつこいいなあ。」

「h e n s h i n」

アラタ「さっき抜かしちゃったけど仮面ライダーカブト、キバツトみたいに人格はないけどちゃんと生きてるベルトだ。」

「サイクロン!! ジョーカー!!」

のぞみ「そしてそして仮面ライダーW!!」

士「はじめて2人で変身する仮面ライダーだ。」

アラタ「こうしてみると仮面ライダー555からベルトが喋るようになったんだね。」

のぞみ「映司さんは？」

映司「よし、今変身するよ!!」

ガチャガチャ!!

キュインキュイン!!

映司「変身!!」

「タカ!!トラ!!バツタ!!タ・ト・バ!!タトバ!!タ・ト・バ!!」

オーズ「歌います、ベルトが。」

のぞみ「あはは、何そのうた!!」

士「歌は気にするな。」

アラタ「他にはどんなのがあるの？」

ガチャガチャ!!

キュインキュイン!!

「クワガタ!!カマキリ!!バツタ!!ガータガタガタキリバ!!ガータキリバ!!」

のぞみ「あはははははー!!」

オーズ「笑わないでよ」。

アラタ「でもさ・・・」

「プリキュア・メタモルフォーゼ!!」

アラタ「突然変異・・・くくくつ・・・」

のぞみ「////////」

士「まあ、アラタのもだけど・・・」

「チェンジ・ゴセイジャー!!」

アラタ「まあ・・・ね。」

つづく

その5 噂

のぞみ「あつ、ダイゴさん!!」

ダイゴ「のぞみちゃん!!」

士「来たか。」

のぞみ「士先生!!」

ダイゴ「どうしたの?呼び出して。」

士「またあいつがプリキュアオールスターズシリーズで小説を書き始めたらしい。」

ダイゴ「よくネタが尽きないな。」

のぞみ「というわけで、プリキュアオールスターズで検索よろしく!!」

というわけでしばらくこちらはお休みです、新作は短めですがよろしく願います。

士「ウルトラマンに仮面ライダー、スーパー戦隊以外にヒーローなんていたか?」

ダイゴ「メタルヒーローは他の人が書いてるしね。」

のぞみ「一体なんだろう?」

その6 Dショッカー

コツコツコツコツ

何者かが悪の秘密組織・大ショッカーのアジトに忍び込んでいる、赤いアフロ、赤く大きな唇、真つ白な顔、黄色と赤の服、そう彼は・

戦闘員「キキ！？何だ貴様！？」

「……」
「僕は、大ショッカーが、だ……いい好き、もちろん君の事もだ……いい好きさ。」

彼が戦闘員の目を見つめる。

戦闘員「キツ！？……キキ……」

「……」
「うふふ、ドナルドはみんなの友達さ、あむ……ん……」

彼はハンバーガーをどこからか出し、かじり付く、そう彼は今話題のドナルド・マクドナルドである。

ドナルド「やあ、君達……」

そこにはイカをつまみにビールを飲む死神博士がいた。

死神博士「何だ貴様は！？」

戦闘員「キキ！？見張りは！？」

ドナルド「あゝ、あの子？うふふ、食べちゃった。」

そうドナルドが先ほど食べたハンバーガーはドナルドの超能力によりハンバーガーに姿を変えたシヨッカー戦闘員だったのだ。

死神博士「なんと・・・お前は誰だ？」

ドナルド「僕？新しいシヨッカーの首領のドナルドさあ。」

戦闘員「キキ！？」

死神博士「何！？」

ドナルド「はい、せいのランランルー♪」

ランランルー♪ランランルー♪ランランルー♪ランラン・・・

死神「私はドナルド様の下部！！ドナルド死神博士だあ！！」

ドナルド「あははは、ドナルドシヨッカーの誕生だよあ！！」

そこに

「？？？「またよくわからないの作りやがって。」

「？？？「土！行くぞ！」

それは門矢土、小野寺ユウスケだった。

ユウスケ「って何だあのピエロは？」

ドナルド「僕はみんなの友達ドナルドだよ。」

士「勝手に決めるな、変身！！」

ユウスケ「変身！！」

士は仮面ライダーディケイドに
ユウスケは仮面ライダークウガ
に変身した。

ドナルド「僕に勝てるかな？」

するとドナルドはハンバーガーの形をしたバックルを身に付けた。

ディケイド「はあ！？」

クウガ「ドライバー！？」

ドナルドは腕を斜め上と斜め下に構えゆっくりと顔の位置でクロス
させる。

ドナルド「変身！」

叫びと同時に笑顔で首を傾げるとドナルドは光り輝きだし、ドライ
バーから音楽が鳴った。

「ドナルドはみんなの友達、ランランルー！」

そして黄色装甲に赤い複眼のライダーになったのだ。

ディケイド「うわぁ・・・」

クウガ「ライ・・・ダー？」

ドナルド「仮面ライダーバーガーだよ、ランランルー♪」

ディケイド「おらぁ!!」

クウガ「やぁ!!」

しかし仮面ライダーバーガーは軽く2人の攻撃をかわした。

バーガー「今度はこっちの番だよ♪」

バーガーは2人を蹴り飛ばし、拳銃を取り出した。

バーガー「マクドナルド・ポテトマグナム♪」

バーガーはポテトを打ち出し、2人を油でギトギトにした（汗）

ディケイド「おい!!?ヌルヌルして剣が握れん!!」

クウガ「うわぁ!!?」

バーガー「あははは!!ドナルドはみんなの友達だよ、もちろん君達もドナルドのだーい好きな友達さ。」

ディケイド「黙れ!!だぁぁぁカードがギトギトだ!!」

「カメンライド！！カブト！！」

「アタックライド！！クロックアップ！！」

ディケイドは高速移動でDonaldを追いつめようとするが

バーガー「早いなあ、じゃあこれだ！！」

バーガーはベルトの横に付いているコーラを飲みだす、ベルトから音が鳴る。

「速く動くよ？ランランルー」

Donaldはクロックアップと同等な速さで動く。

ディケイド「ええええ！！？」

クウガ「速っ！？超変身！！」

クウガはペガサスフォームになった！！

クウガ「そこだ！！」

クウガはペガサスシュートを放ちDonaldにあてた。

Donald「痛い、君にはとっておきを用意するよ。」

バーガーはクウガをアッパーで殴り飛ばし、落下するクウガを地面につけないようにリフティングのように蹴り上げる。

ディケイド「ユウスケ!!」

クウガ「うわぁ!？」

バーガーの大きな右足にエネルギーが溜まる。

バーガー「超必殺技!!ハッピーセット!!」

クウガは大きな右足を叩き込まれディケイドを巻き込み吹き飛ばし。

ディケイド「ぐっ・・・ユウスケ!!」

クウガ「う・・・」

ドナルドのウワサ

「ドナルドの靴って何センチ？」

バーガー「ドナルドの靴はハンバーガー4個分さ。」

ディケイド「このやろっ!!」

「ファイナルカメンライド!!ディケイド!!」

ディケイドはコンプリートフォームになった。

ディケイド「油なら燃やしてやる!!」

「ヒビキ!!カメンライド、アームド」

ヒビキ装甲を呼び出すディケイド。

バーガー「ポテトソード！！超必殺技！！」

「ファイナルアタックライド！！ヒビヒビキ！！」

ディケイド「だああああ！！」

バーガー「えええええい！！」

バーガーの必殺技は打ち砕かれ、バーガーはディケイドに負けた。

ドナルド「ドナルドは・・・みんなの・・・友達さ・・・ドナルド
って日本人にしか呼ばれてないんだよ。」

ドサッ

ドナルド「ラン・・・ラン・・・ルー♪」

ドナルドは大量の油と共に消滅した。

クウガ「終わった？」

ディケイド「たく、世話がやける。」

・・・・・・

死神博士「・・・私忘れられてる？」

おわり、ランランルー
♪

その7 のぞせん(前書き)

ごくせん&pp:プリキュア5

その7 のぞせん

サンクルミエール・・・それは誰もが恐れる不良の学校であった、そこにある女教師が訪れた。

3年D組・・・

首領 夏木りん

りん「今日新しい教師来るらしいぜ。」

そのお供 春日野うらら

うらら「またりんさんの下部ができますね。」

もう一人の首領 美々野くるみ

くるみ「あんななんかに一生下部なんて出来ないよ!..!」

りん「んだとてめえ!?!」

退かれるエリート 水無月かれん

かれん「本当にガキだな。」

くるみ、りん「何!?!」

唯一の良心 秋元こまち

こまち「喧嘩は止めて！！同じクラスの仲間じゃない！！」

りん「仲間？何が仲間だよこのやろっ！！」

・・・

新任教師 夢原のぞみ

のぞみ「ここが新しい私の教室・・・よし、頑張るぞ！けって・・・」

ガシャン

くるみ「あんた私になんて言った！？」

教室から激しい物音が聞こえた。

のぞみ「ええ！？何々！！」

のぞみが扉を開けるとくるみがこまちに向かって椅子を振り上げていた。

のぞみ「やめなさい！！」

くるみ「・・・何よあんた、外野は引っ込んでなさい！！」

のぞみ「それは無理だね、あんたは私の教え子なんだから。」

教室中がざわめく。

「あいつか、新任教師つて。」

「なんだよ、意外と可愛いじゃん。」

するとりんが机を思いっきり蹴飛ばす。

りん「教師だかなんだか知らねえけど・・・あまり私達を怒らせない方が良いでしょう？」

のぞみ「へえ、見たところあなたがボスね、女の子がボスって珍しいね。」

りん「っ！？・・・てめえ！！！」

こまち「止めて！！りんさん！！！」

りん「邪魔すんなこまち！！！」

こまちがのぞみを殴ろうとするりんを止めた。

りん「チッ。」

のぞみ（どうやらとんでもないクラス任されちゃったみたい。）

放課後

のぞみ「（あつ、秋元さん！！）おゝい！」

こまち「先生？」

のぞみ「あのクラスの事教えてくれない？」

こまちは少し戸惑った、何かを隠しているみたいだ、そして口を開いた。

こまち「私達のクラスは不良の集まり、でも本当はみんな仲間には優しい人達なんです。」

のぞみ「何だかさつきは対立してたみたいだけど？」

こまち「りんさん、近くの学校のボスと決闘の約束をして・・・くるみさんがそれを止めたんだけど・・・それ以来あの2人あんな感じで。」

のぞみ「わかったわ、ありがとう！！」

のぞみはつまづき転んでしまった。

のぞみ「うぎゃー!？」

こまち「だっ、大丈夫ですか!？」

翌日の放課後

のぞみ「かなり厄介なクラスだなあ、今まで通りにはいかないかも。」

校舎裏に回ったのぞみが見たのはりんとくるみだった。

りん「いい加減にしろよてめえ。」

くるみ「それはあんたでしょ？弱いくせにえばって。」

りん「このやろおおおおお！！！」

りんはくるみに拳を降りかかるがのぞみに受け止められた。

のぞみ「何やってんのよ！！！」

りん「邪魔すんな！！引つ込んでろ！！！」

りんはのぞみに殴りかかるがしゃがんで交わされのぞみの溝打ちをくらった。

くるみ「なっ！！？」

りん「くっ・・・」

りんは倒れ込んだ。

のぞみ「なめないでよ、あたしは生徒のためなら手加減しないよ。」

くるみ「りんを一撃で・・・あんた一体・・・」

のぞみ「昨日言ったじゃん、私はあんた達の担任の先生だよ。」

りん「何が・・・担任だ・・・覚えてろよ。」

のぞみ「タイマンを止めたのが原因？」

くるみ「あんた何で!？」

りん「こまちか・・・余計な事を・・・」

のぞみ「今からでも遅くない、仲直りして・・・」

くるみ「あんたねえ・・・」

りん「ダメ!!そんな事したら・・・本当は仲直りしたいよ、でも・・・」

???「聞いたぜりん。」

りん「!？」

後ろには大勢の不良が集まっていた。

不良「俺達の仲間入ってそいつぼこるんじゃないのか?まさか・・・」

くるみ「りん!?!?どういう事!？」

りん「何よ・・・金払えば協力するって言ったじゃないか!?!それなのにくら払っても何もしくせに、都合の良い事言ってるじゃないえよ!?!」

不良「んだとてめえ!？」

不良は鉄パイプを振り上げる。

りん「うわぁ!？」

くるみ「りん!!」

・・・

りん（あれ？助かってる？）

りんは顔を上げた、なんとのもぞみが鉄パイプを片手で受け止めたのだ。

不良「なっ、何だてめえは？」

のもみ「私？私はいつらの担任の先生だ。」

のもみは髪に巻いていたゴムを外していた。

くるみ「何？どうしてあんな奴が？」

不良「なめてんのか！？たかが教師が!？」

のもみ「なめてんのはてめえらだろうが!！」

のもみは不良の溝に蹴りを入れた。

不良「がはっ!？」

りん「なっ!？」

のもみ「言っとくけど私は生徒を守るためなら・・・手加減しない

よ!!!」

不良「てめえぶっ潰す!!」

不良達はそのみに襲いかかるが、のぞみに顔を殴られ、溝に入れられ、鉄パイプを奪われ殴られ、あっという間に全滅した。

不良「なっ・・・てめえ・・・」

のぞみ「何だよ、まだやんのか? だったらかかってこいよ、ただし
てめえも心して来いよ?・・・こっちは腹くくってんだからよっ!
!」

不良「ひいひい!!」

不良達は逃げ去った。

くるみ「あいつら、結構名のしれた奴らよ?」

りん「それを一人で・・・」

のぞみはしゃがみ込んでいるりんを立たせてくるみの手を握らせる。

りん「んだよ!」

くるみ「ちよつと!」

のぞみ「良いから良いから、仲間なんだからもつこんな事で争うな・
・・・なっ?」

りんとくるみは黙り込む。

りん「・・・あのさ・・・」

くるみ「えっ!？」

りん「悪かったよ・・・// //」

のぞみ「良いねえ、青春だなあ・・・よし2人共!!あの夕日に
向かって走れ!!」

のぞみは走り出す。

りん、くるみ「夕日じゃねえし、電灯だし(汗)。」

もしかしたら間があいてつづくかも!?

その8 スカイ！！

のぞみとつぼみは筑波洋とナオキと共にスカイダイビング計画を実行していた。

つぼみ「たたたたたたた高いですうううううう！？シプレはどこですかああああ！？」

のぞみ「シプレは檻の中に入れといたよ。」

洋「ひどいな！？」

ナオキ「ていうか何でいきなりスカイダイビングなんだ？」

のぞみ「つぼみの高所恐怖症を直すため！」

つぼみ「ききききき聞いてませんそんな事おおお！？」

ナオキ「そろそろ良いんじゃないか？」

洋「よし！！行くぞ！！！」

のぞみ「いつくよー！！！」

つぼみ「ちよつと！？引つ張らないくださいiiiiiiii！？きやあああああああああああああああああ！？」

かなりの高さからダイビングする3人。

洋「スカアイ！！変身！！」

のぞみ「プリキュア！！メタモルフォーゼ！！」

洋はスカイライダーになりつばみを掴む、そしてある事に気づいた。

スカイライダー「あれ？ドリームはスーパー化しなくても飛べるっけ？」

ドリーム「あっ・・・きゃあああ！？」

ドリーム落ちます落ちます、それをジャンボーグAが救う。

ナオキ「ハンティングフラッシャー！！」

ドリーム「プリキュア！！シューティングスター！！」

スカイライダー「スカイクック！！つばみを抱えたままバージョン！！」

怪獣を倒し着地する3人。

スカイライダー「おい、つばみ気絶してるぞ？」

ドリーム「本当だ。」

ナオキ「なんか白目むいてるな。」

つばみ「おばあちゃん・・・今私も・・・行きます。」

ドリーム「いやいや！？つばみのおばあちゃん生きてるから！！それに勝手に死んじゃダメだよ！！つばみ！！つばみ！！いいいいいい！！」

おわり

その8 スカイ!!（後書き）

ターザン「どうもターザンです、ついに完全オリジナル小説を執筆する準備が整いました。」

のぞみ「何々？」

士「まえふりはいらん、早く教えろ。」

ダイゴ「気になるな。」

ターザン「それは次回発表します!!」

ズデン!!

その9 オリジナル小説

士「で？早く教えるよ。」

のぞみ「題名は？内容は？」

ダイゴ「教えて教えて！！」

ターザン「ズバリ！！」

「仮面ライダーヤイバ」

士「はあ？仮面ライダー？」

のぞみ「ヤイバ？」

ターザン「そう！！ずっとお話にしたいなあって思ってたついに実現！！」

ダイゴ「どんな内容なのかな？」

ターザン「予告編を流すよ、どうぞ！！」

・・・・・・

新番組！！仮面ライダーヤイバ

平凡な日常の破壊を企む組織「プロト」、人々を悲しみに追いやる中1人の男、武藤蒼牙が立ち上がる。

蒼牙「これは何とかしないと!?!」

プロト「力無き者は滅べ!?!」

ヒロイン「私は信じます、あなたが奴らと戦うなら。」

プロト「貴様何だ!?!」

蒼牙「知らないよ!?!こうなったらやけくそだあ!?!変身!?!」

「仮面ライダーヤイバ」

近々投稿!!

ヤイバ「今日がお前の命日だ。」

.....

ターザン「どう・・・かな?」

のぞみ「見たい見たい!?!」

ダイゴ「面白そうだよ。」

士「まあまあだな。」

ターザン「ヨッシ、燃えてきた!?!」

その10 あれ？これ、前の服じゃん！

ある日の事、城戸真司はプリキュア5メンバーとケーキを食べていた。

真司「いや、ショートケーキは旨いなあ。」

こまち「あら、モンブランも美味しいわよ？」

うらら「やっぱりチョコレートケーキが一番です！！」

りん「ふふん、こっちはちょっと大人なガトーショコラだよん。」

くるみ「苺タルトが一番よ！！酸味がたまらないわ。」

のぞみ「全部一番だよ！！あつ、真司さんの苺ゲット！！」

真司「ああ！？最後にとっておいたのに！！返せ！！」

かれん「騒がしいわよ……ってりん！！私のエクレアまるごと持つていかない！！」

りん「バレた！？」

その頃ミラーワールド

神崎「戦え、戦え、戦……はあ、たのしそうだなあ。」

なんだよ、やきもちか？

神崎「違うよ！？断じて違うよ！！・・・仕方ない、オーちゃん。」

オーデイン「私を変なあだ名で呼ぶな。」

・・・

「あはははははははははは！！」

神崎「頼む、オーデイン。」

オーデイン「はいはい。」

「タイムベント」

ぎゅうううううん

・・・

現実世界、モンスターが現れた！！

真司「あつ！！悪い奴！！よおし、変身！！！！」

のぞみ「みんな、行くよ！！」

「YES！！」

「プリキュア！！メタモルフォーゼ！！！！！！」

龍騎「よっしゃー!!」

「YES!!プリキュア・・・ん？」

ローズ「ん？」

ドリーム「あれ？これ・・・」

ルージュ「前のコスチュームだね。」

レモネード「本当です!!」

ミント「懐かしいわね。」

アクア「本当ねえ。」

「あはははは・・・ってぎやあああああああ!!？」

ドリーム「ななな何で戻ってるのお!？」

龍騎「何でだ!？」

神崎「やった!!オーちゃん良い仕事してるよ!!」

オーデイン「またオーちゃんって言ったな!!」

とりあえずあためふためく5人。

モンスター「ガオオオオオオ!!」

「うるさい！！プリキュア・ファイブ・エクスプロージョン！！！！！！」

モンスター「ぎゃああああ！！？」

龍騎「うお、出番無しかよ！？」

神崎「あらら、やられた。」

アクア「でも何で前の姿に！？」

ミント「キュアモはあるのに！！」

「わああああ！！」

ディケイド「うるさい！！」

ドリーム「先生、助けてよ。」

ディケイド「つたく、面倒くさい。」

「アタックライド・・・コンファインメント！！」

コンファインメントでタイムベントを打ち消します。

レモネード「戻りました。」

ルージュ「いやあ、良かった良かった・・・ってドリーム！？」

ガクッ

龍騎「どうしたの!？」

ドリーム「・・・お腹痛い。」

神崎「腹を冷やしたか。」

ディケイド「お前も引っ込め!!」

「ファイナルアタックライド・・・ディディディディケイド!!」

神崎「ぶはあ!？」

ディケイド「たく、ドリームは腹出してるからだぞ。」

ドリーム「そんなあ。」

龍騎「まかせろ!!」

「ストライクベント」

ディケイド「やめろおお!!？」

おわり

その10 あれ？これ、前の服じゃん！（後書き）

くるみ「せつ、セリフが2つだけ・・・」

その11 天才が作った機械人

ある日の事、ほのか、舞、かれん、祈里、いつき、そしてフィリップは怪しい事を企んでいた。

フィリップ「興味深い、作らないと満足しないな。」

祈里「フィリップさん、鉄買ってきました。」

かれん「青にする？赤にする？」

舞「ねえ、本当に作るの？」

フィリップ「当然さ、是非とも操縦してほしい。」

ほのか「言っても無駄みたいね。」

いつき「それにしても完成が楽しみだよ。」

.....

士「ふわあ、おはようさん・・・ってなんじゃこりゃあああああああああ！？」

のぞみ「何々！？」

雄介「これは！？」

目の前には機動戦士ガン。ムが三体そびえ立っていた。

フィリップ「驚いたかい？これは僕達が発明したガン。ムだ。」

のぞみ「奥さんの事？」

士「それはマダムだ、madam。」

かれん「何故二回目は発音が良いのよ。」

猛「だが、何のために？」

フィリップ「三人で戦ってほしくてね、なあにピンチになったら自動脱出できるから。」

のぞみ「はいはい、私やる！！」

翔太郎「駄目だろ、バカだから。」

のぞみ「ひつどーい！？」

士「俺がやってやる、暇つぶしにな。」

雄介「じゃあ、オンドウル頼むよ。」

オンドウル「ダデガオンドウルダ！！」

のぞみ「やだやだ！！私がやるもん！！」

りん「仕方ない、やらせてあげて。」

フィリップ「仕方ない。」

てなわけで、士、一真、のぞみでガン。ムにのりこむ。

ストライクガン。ム 士

士「なるほど、操縦方法は大体わかった。」

デステイニーガン。ム 一真

一真「そんな、こんなに装置が・・・ウゾダドントゴドーン!!」

初代ガン。ム のぞみ

のぞみ「すつごおい!!機械がいつぱい!!」

史郎「さあ始まりました、ガン。ム対戦!!司会は私風見史郎と仮面ライダーアクセルの照井竜さんです。」

竜「よろしく。」

史郎「今回無理やり開催されたガン。ム対戦、どのガン。ムが勝つと思われませんか?」

竜「俺に質問するな。」

.....

まずストライクがデステイニーにビームサーベルで斬りつける。

士「なかなか使いやすいな。」

一真「まずい！！こうなったらビームだ！！ウェーイ！！」

デステイニーがストライクを押し返す。

士「やりやがって！！」

一方のぞみは

のぞみ「ビーム？何だっけ？サーベルって何だろう？」

士「おらああああああ！！」

一真「ウエエエエエエエー！！」

史郎「若干士がおしてますね、どうですか？竜さん。」

竜「俺に質問するな。」

一真「まずい、のぞみ！！手を貸してくれ！！」

のぞみ「わかった！！とりあえずこのボタン！！」

ポチッ

ミサイル全弾発射！！！！デステイニーに直撃！！

のぞみ「えっ？」

一真「オンドウルラギツタンデイスカアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア!?!」

士「バカが・・・」

史郎「おつとデステイニー破壊された!?!! 竜さん感想は!?!」

竜「俺に・・・質問するなああああ!?!」

「アクセル!?!」

竜「変・・・身!?!!」

史郎「やる気か!?! 変身・・・ブイスリヤアア!?!!」

・・・・・・

のぞみ「ありやりや、え〜とこれかな?」

ポチッ

自爆!!

のぞみ「ええええええ!?!」

2人は奇跡的に無傷で助かった。

士「さすがは俺だな。」

手をおくとそこにはスイッチがあった。

ポチッ

自爆!!

士「何故だあああ!?!」

V3「竜さん!!この結果はどうですか!?!V3反転キック!!」

アクセル「俺に質問するなあああ!?!」

「アクセル!!マキシマムドライブ!!」

ダメだこりゃ

フィリップ「予想外の展開だった。」

おわり

その11 天才が作った機械人（後書き）

要望整理のため、しばらく要望を打ち切ります。

その12 再会の星獣

スーパー戦隊との戦いから数週間・・・

のぞみ「ねえりんちゃん。」

りん「ん、なに？」

のぞみ「ギンガイガーとギンガラゴンどうしてるかな？」

りん「あゝ、確かにお世話になったもんね。」

2人は星獣について話しているとサヤとぼったりと出会った。

サヤ「あれ！？2人共元気だった！？」

りん「あつ、サヤさん！！」

のぞみ「お久しぶりです！！あつ、あの・・・」

かくかくしかじか

サヤ「あの子達なら元気よ、心配なら会いに行く？」

りん「良いんですか！？」

サヤ「歓迎するわよ！！」

のぞみ「よし、星獣に会いにいくぞー！！」

三人「けってゝい!!」

そんなわけでギンガイガーとギンガラゴンと感動の再会……のはずが!?

ギンガラゴン「はあゝ。」

ギンガイガー「なんだかなゝ。」

星獣の言葉は普通に書きます。

のぞみ「どっ、どうしたの!?!」

りん「何かあったの!?! サヤさんさっき元気って!!」

サヤ「いや!?! さっきまでは元気だったわよ!?!」

すると

ギンガイガー「あ、のぞみ久しぶりゝ。」

ギンガラゴン「元気してたゝ?」

のぞみ「一体ぜんたいどうしちゃったの!?!」

ギンガラゴン「んゝとね……。」

数時間前

ギンガラゴン「ギンガイガー！！しりとりだ！！」

ギンガイガー「よし！！りんご！！」

ギンガラゴン「ごりら！！」

ギンガイガー「ラッパ！！」

パセリ、リズム、紫、企画書、喜び、ビジネス、スイッチ、チエツク、栗、りす、スイカ、かりんとう、・・・

ギンガイガー、ギンガラゴン「終わんねえ・・・」

ギンガラゴン「俺達才能無いんだな。」

ギンガイガー「だな。」

「はあああああ。」

・・・

りん「え！？終わり！？」

サヤ「そんな事で世界の終わりみたいな雰囲気を出してるの！？」

しかし

のぞみ「わかるわかる！！問題が沢山ある宿題でなかなか終わらないっていうのに似てる！！」

りん「似てない、断じて似てない!!」

サヤ「ちょっと、最初からしりとりやってくれる?」

ギンガイガー「わかった。」

ギンガラゴン「リズム。」

ギンガイガー「ムエタイ。」

EZメモリーポケット、トーナメント、トイザラス、スケジュール、ルクセンブルク、くりにむしちゅー、ユーザー、ザウバー、バルセロナ、・・・

りん「何で!?何でそんな言葉が次々と出てくるの!?!」

サヤ「才能あるじゃない十分!!」

のぞみ「え?」

ギンガイガー「あら?」

ギンガラゴン「うそ?」

「しりとりって(ん)がついたら勝ちじゃなかったっけ?」

サヤ、りん「……………ダメだこりや。」

お
わ
り

その13 嵐を呼びたい？呼びましょう！！

秋元こまち、小説家を目指して今日も執筆中なのだが？

こまち「アイデアが思いつかないわ・・・どうしよう。」

するとそこにのぞみ、えりか、なぎさ、舞、良太郎が来た。

のぞみ「こまちさん！！今回はどんな小説？」

こまち「みんな！！実はネタがきれてしまって・・・」

良太郎「こまちちゃんの小説は面白いから早く読みたいな。」

えりか「ネタぎれかあ、困ったね。」

舞「私はスケッチ担当だからなあ。」

なぎさ「どうしようか？」

するとただならぬ空気が周りを包む。

良太郎「なっ、何！？」

モモ（気をつけろお前ら！！）

すると声が響く。

????「おねえさんはどんなお話が書きたいの？」

こまち「え！？え」と例えば、嵐を呼ぶような冒険話かしら？」

「???」そんな時は、オラにおまかせだゾ！！とお！！」

すると不思議な空間から坊主で赤い服に黄色いズボンの幼稚園児が現れた、そう彼こそ・・・

のぞみ「きつ、君は？」

「???」オラ！！野原しんのすけ！！5歳！！」

そう、彼は野原しんのすけ！！

数々の困難を乗り越えた勇敢な・・・勇敢かな？勇敢だよな？

良太郎「しんちゃん！！」

モモ（しんのすけ！！）

しんのすけ「ん？おお！！ブリブリざえもん！！で、あんた誰？」

盛大にずっこける良太郎。

モモ（あんな！！俺はモモタロスだ！！）

良太郎「しんちゃん、ほら、一緒に変身したじゃない。」

しんのすけ「おお！！良太郎君！！仮面ライダー健康！！」

えりか「いや！？電王でしょ！？健康って！？」

しんのすけ「ん？あは〜ん、綺麗なおねえさんがいっぱい、オラとデートしない？」

のぞみ「で、で〜と？」

舞「この子本当に5歳？」

なぎさ「綺麗なおねえさんだなんて照れるなあ。」

しんのすけ「おねえさん、目玉焼きはお醤油ですかソースですか？」

いきなり凜々しくなるしんちゃん。

なぎさ「お醤油！！」

舞「私も醤油かな？」

のぞみ「ええ〜、ソースだよ。」

こまち「私は醤油だわ。」

えりか「私はね〜」

しかししんちゃん

しんのすけ「オラお子ちゃまには興味ないゾ。」

なぎさ「おっ！？」

舞「おっ!?!」

のぞみ「おっ!?!」

こまち「おっ!?!」

えりか「お子ちゃまああああああ!?!」

しんちゃんはどうやらメンバー1身長が低いえりかをお子ちゃまと
言っただけ!!

なぎさ「私15歳。」

舞「私は14歳。」

のぞみ「私も14歳。」

こまち「私は15歳よ。」

えりか「13歳・・・」

しんのすけ「お子ちゃまだゾ。」

えりか「5歳のあんたに言われたくなああああああい!?!」

しんのすけ「おねえさん、どんなお話だっけ?」

こまち「あつ、えっ!?!え〜と・・・嵐を呼ぶような・・・その・・・」

良太郎「ようするに決まっていって事？」

こまち「・・・く。」

こまちは顔を赤らめて頷いた。

しんのすけ「照れてるこまちちゃんもす・て・き」

えりか「ちよつとあんた、いい加減にしなさいよ。」

しんのすけ「んも、何かよう？」

えりか「私はお子ちゃまじゃなくておねえさんでしょー!」

しんのすけ「のぞみちゃんのほうがおねえさんだもん」

と、しんちゃんのはのぞみに飛びかかりしがみつく。

のぞみ「ええ！？えと、よしよし。」

しんのすけ「あは、ん、し・あ・わ・せ」

良太郎「モモタロス、どうする？」

モモ（亀がいたら何て言うか。）

舞「そつ、それよりしんちゃん、小説のアドバイスをしに来たんだよね？」

しんのすけ「おお、こつてり忘れてたゾ。」

良太郎「すっかりね。」

こまち「内容は、主役が宝物を探して旅に出るんだけど途中に悪者に会って・・・その後なんだけど。」

しんのすけ「なるへそなるへそ、オラにまかせるゾー！」

しんのすけはカキカキと文章を書き出す、幼稚園児にしてはけっこう読める文章だ。

こまち「えーと、悪者に出会った主役はピンチに陥った、そこに正義の味方ブリブリざえもんが参上、千歳飴を駆使してついに悪者を倒しましたとさめでたしめでたし。」

えりか「ブリブリざえもん？」

なぎさ「何それ？」

良太郎「ああ、伝説のイマジンのことね。」

舞「これがブリブリざえもんの絵ね。」

のぞみ「不思議な豚だね。」

すると

こまち「とても面白いわー！ありがとうしんちゃんー！アイデアが思いついたわー！」

しんちゃん「ほっほーい！！お役にたてて嬉しいゾ、じゃあオラ帰るゾー！！」

良太郎「じゃあね。」

モモ（またな、しんのすけー！！）

しんのすけ「ほっほーい！！！！あつ、えりかちゃん。」

えりか「ん？何よ？」

しんのすけ「オラえりかちゃんの事好きだゾ。」

えりか「えっ？」

しんのすけ「またねー！！」

えりか「・・・ええ、また会う時は凄い大人になってるからね！！！見てなさいよっ」

しんのすけ「楽しみだゾー！！じゃあまたね。」

おわり

その13 嵐を呼びたい？呼びましょう！！（後書き）

ターザン「ん〜。」

ラブ「どうしたの？」

蒼牙「悩み事？」

ターザン「ああ、ラブに蒼牙、いやさ・・・これを見てくれ。」

・・・

映司「この黒いメダルを使えば良いんでしょ！！」

アंक「どうなっても知らないぞ！！」

仮面ライダーオーズ

黒き欲望

蒼牙「龍一の過去、話してくれるか？」

龍一「・・・ああ。」

仮面ライダーヤイバ

ケン is birthday

仮面ライダー×仮面ライダー ヤイバ&オーズ movie
大戦space

．．．．．

蒼牙「何これ？」

ターザン「連載中の仮面ライダーヤイバを終わらせたらこれを書く予定なんだ、問題は次．．．」

．．．．．

蒼牙「何だここ？」

ラブ「あれ？あなたは？」

仮面ライダーヤイバ、プリキュア！！
夢の共演！！さらに．．

蒼牙「ねえ、ボク。」

ラブ「ここどこかわかる？」

???「ん？あんた誰？」

クレヨンしんちゃん参戦！？

プリキュアオールスターズ〜嵐を呼ぶ！！雷の仮面と幼稚園児！！〜

．．．．．

ラブ「．．．本気？」

ターザン「ヤイバとプリキュアは本気、問題はしんちゃんなんだ！
」

蒼牙「まあな、今回出てるし・・・様子見ようよ。」

ラブ「それが良いよ！」

ターザン「・・・そうだな。」

その14 青いネコ型

つぼみ「……ん、ん……あれ、もうこんな時間!？」

つぼみ朝寝坊!!

つぼみ「ひえ〜!?!遅刻してしまいます!?!」

つぼみは遅刻の定番トーストを口にくわえて学校へ向かう。

つぼみ「完全に遅刻です!!ひえ〜!?!」

すると

????「どうしたの?」

つぼみ「え!?!ああ、狸さん!!私急いでるんで!!」

????「僕は狸じゃなくてネコ型ロボット!!もう、どうやら遅刻みたいだね、はいこれ。」

ネコ型ロボットはポケットからピンクのドアを取り出した。

つぼみ「これは?」

????「急いでるんでしょ?行きたい所を思い浮かべて開けてごらん。」

つぼみ「え!?!え〜と……(学校。)」

つぼみがドアを開けるとそこはすでに学校だった。

つぼみ「え！？これはどういう事ですか！？」

ドアは既に消えていた。

.....

放課後

つぼみ「という事があって・・・」

えりか「ウツソー、夢じゃないの！？」

つぼみ「ち、違います！！」

ゆり「でもそんな事が本当に可能かしら？」

いつき「不思議だね。」

するとまたまたネコ型ロボット参上！！

ネコ型ロボット「あつ、また会ったね。」

つぼみ「あつ、ネコ型ロボットさん！！」

えりか「うわ！？狸！？」

ネコ型ロボット「狸じゃない！！」

ゆり「もしかしてあなたがつぼみに？」

ネコ型ロボット「そう、僕ドラえもんです。」

いつき「ドラえもん？」

ドラえもん「学校には間に合った？」

つぼみ「あつ、はい！！ありがとうございます！！」

いつき「でもドアをくぐれば好きな所に移動できるなんて・・・」

ゆり「あなたは未来から来たの？」

ドラえもん「はい、22世紀からね。」

えりか「22世紀！？」

いつき「たしかにそんなに未来なら可能かもね。」

えりか「ねえねえ、他に道具ある？」

ドラえもん「あるよ、タケコプター！！」

タケコプターをつぼみの頭につける。

つぼみ「ふええええ！？飛んだあああ！？」

いつき「凄い！！他には何があるの！？」

ドラえもん「ビッグライト!!」

えりか「よっしゃああああ!! 背が伸びたああああ!!」

いつき「他は!?!」

とまあこんなやりとりが続き・・・

ドラえもん「はあ、疲れたあ。」

いつき「ちよつと無理させちゃったね。」

ゆり「加減を考えなさい。」

ドラえもん「でも楽しかったよ、またね。」

えりか「バイバイ!」

・・・

つぼみ「降ろしてくださあああああ!!?」

おわり

その14 青いネコ型（後書き）

次からは仮面ライダーヤイバに戻ります。

その15 海

「プリキュア！！メタモルフォーゼ！！」

「プリキュア！！オープンマイハート！！」

アクア「知性の青き泉、キュアアクア！！」

マリン「海風に揺れる一輪の花！！キュアマリン！！」

出たね、海のプリキュアじゃん。

アクア「で・・・何故私達をここに？」

マリン「ちょっと、忙しいんだから早くしてよ？」

はいはい、え〜と君達に用がある人がいてね、この人。

「怒涛のシーニックパワー！！ゴセイブルー！！」

マリン「ゴセイブルーじゃん！？どうしたの？」

ゴセイブルー「思ったんだ、俺達には・・・」

アクア「？」

ゴセイブルー「海を愛する気持ちが薄い！！」

「へ？」

ゴセイブルー「海の戦士は海と一心同体！！というわけでこれだ！！」

海を愛する者の意識表明大会！！

アクア「まさかこれに私達も？」

ゴセイブルー「当然だ。」

マリン「ちょっと私は新しいファッションの計画が・・・」

ゴセイブルー「優勝は伝説の龍の皮を使った布地だが？　マリン「やらせていただきます！！」

アクア「変わり身早！？私は遠慮しと・・・」

ゴセイブルー「最高級グレイプジュースもついてくるぞ？　アクア「やらなきゃいけないわ！！プリキュアとして！！」

ちゃっかりしてるぜ・・・数日後

出場者　クウガ・ドラゴン、バルシャーク、マリン、アクア、ゴセイブルー、ウルトラマンアグル、釣りバカの浜ちゃん

ゴセイブルー「海は家族だああああ！！」

デデンー！！

82点

アクア「絶叫大会だったの!？」

ゴセイブルー「絶叫で海の意志表明をする、それがこれだ。」

ウルトラマンアグル「デア!！」

デデン!!

85点

マリン「言葉になってないのに。」

浜ちゃん「鯉太郎おおお!！」

デデン!!

90点

マリン「海関係ないじゃん!？」

バルシャーク「海iiiiiiii!！」

デデン!!

95点

アクア「そんなんでは?」

さあ、最後は君達2人組だよ。

アクア「い、行くよマリン。」

マリン「う、うん。」

「せーの、海が大好きだああああ!!」

デデン!!

64点

アクア、マリン「!？」

残念

その後、2人は少し海が嫌いになりました。

おわり

その16 どっちが最強？

ある日の事

アルティメット、シャイニング、サバイブ、ブラスター、キング、アームド、ハイパー、クライマックス、エンペラー、コンプリート、エクストリーム、タジャドル・・・これは平成仮面ライダーの最強フォームだが！？

士「馬鹿、ライダーに決まっている。」

のぞみ「違うよ！！絶対プリキュアだもん！！」

雄介「どうしたの2人は？」

なぎさ「ライダーとプリキュアの最強フォーム、どっちが強いかわけはなし。」

スーパー、レインボー、シャイニング、エンジェル、スーパーシルエット

これがプリキュアの最強フォームだ。

咲「実際どうなんだろう？」

フィリップ「興味深い、すぐに実験すべきだ。」

翔太郎「お前・・・（汗）」

つぼみ「とりあえず調べてみましょう。」

映司「選抜会議だね。」

.....

そして選ばれたのが・・・この2人！！

誰かの笑顔を守るため究極の闇をも乗り換えた戦士！！

仮面ライダー・クウガ・アルティメットフォーム！！

クウガ「いっくつぞお！！」

世界に輝く一面の花！！キュアブロッサム・スーパーシルエット！！

ブロッサム「頑張ります！！」

歴代の戦士の誇りを胸に、さあ戦え！！

クウガ「はあ！！」

おっとクウガは手から炎を放つ、ブロッサムは華麗にかわしていく。

ブロッサム「ブロッサム・インパクト！！」

ブロッサム反撃！！しかしアルティメットの体はかなり頑丈だ、びくともしない！！！！

クウガ「ふっ！おりゃあああ！！」

クウガここで渾身のパンチ！！直撃だあ！！

ブロッサム「きゃあ！？くっ、ブロッサムシャワー！！」

ここでブロッサムシャワー発動！！これは効いている！！

クウガ「ぐあ！？はあはあ・・・はっ！！」

ブロッサム「ふうふう・・・花よ輝け！！」

ここで最強技発動だあ！！

クウガ「おりゃああああ！！」

ブロッサム「ピンクフォルテウェーブ！！」

ドカアアアアアン・・・

クウガは決めポーズで着地、ブロッサムも無傷、どうやら引き分けです。

フィリップ「実に興味深かった。」

士「差は無いって事か。」

のぞみ「そっか。」

おわり

その17 記者会見

ターザン「どうもみなさん、ターザンです。」

蒼牙「ちよつと今までの作品の主人公とかそれっぽいの呼んで何する気？」

士「そろそろ帰っていいか？」

のぞみ「ねえ何で私達呼んだの？」

ターザン「実は重大なお知らせがある。」

ダイゴ「重大なお知らせ？」

京太郎「何だいそれは？」

剛「教えてくれないか？」

しんのすけ「聞きたい聞きたい!!」

ラブ「早く教えてよ!!」

ターザン「じゃあ早速・・・」

・・・

「仲間というのは、互いに励まし合い許し合う者同士の事だ!!」

「仲間は利用するんじゃないって信じるんだよ。」

「どんな絶望の中でも人の心から、光が消え去る事はない!!」

プリキュアオールスターズ×仮面ライダーディケイド×ウルトラ8兄弟

「見るが良い!! かつて世界を救うために命をかけて戦った、誇り高い勇者達を!!」

プリキュアオールスターズ×スーパー戦隊

「お前のような自分の私利私欲で世界を滅ぼそうとするなら、俺達が止めてみせる!!」

「あなたの思い通りにはさせない!!」

プリキュアオールスターズ×3大T巨人

「今日がお前の命日だ!!」

「みんなで幸せゲットしなくちゃ!!」

「オラはみんなをお助けするゾ!!」

プリキュアオールスターズ×雷の仮面と嵐を呼ぶ幼稚園児

そしてプリキュアオールスターズシリーズ第5作!!

「俺は全ての破壊者だ、だからお前らも破壊する!!」

「私達は、みんなの夢を・・・応援したいから。」

「光よ、もう一度僕に力を貸してくれ!!」

プリキュアオールスターズ×仮面ライダーディケイド×ウルトラ8
兄弟 second the finale episode

.....

ターザン「という事です。」

「ウソオオオオオオオ!？」

士「またこいつのお守りか。」

のぞみ「ぶゝ、何それ。」

ダイゴ「にしても驚いたな。」

ターザン「歴代作品で一番好評だったんだ、だから良いかなって、
でね?」

一同「?」

ターザン「のぞみ、なぎさにほか、咲に舞であの成立してない戦
隊とコラボさせたいからいつでも良い、お前の家に集めてくれ。」

のぞみ「えっ?う、うん。」

剛「成立してない戦隊？そんなのシリーズにいたか？」

では最新作が出来るまで超クロスオーバー物語をお楽しみください、
多分2、3回です。

その17 記者会見（後書き）

というわけで次回は成立してない戦隊とコラボさせます、では他に要望お待ちします。

その18 成立してない(前書き)

いつ成立するんだろう？

その18 成立してない

のぞみは作者の言ったとおり家になぎさ、ほのか、咲、舞を呼んだ。

なぎさ「作者が？」

のぞみ「うん、何だろう？」

ほのか「私達共通点はプリキュアぐらいよね？」

咲「？」

舞「さっぱりわからない。」

すると誰かが部屋の扉をノックする。

のぞみ「あれ？誰か呼んだかな？どうぞ。」

すると骸骨のヘルメットをかぶった男があらわれた。

骸骨男「こんちわ。」

5人「ぎゃああ！？」

骸骨男「ああ！！落ち着いて落ち着いて、違いますねん悪い奴ちゃんいますねん。」

なぎさ「思いつきり悪い奴でしょ！？」

骸骨男「聞いてくれ、わいはドクロ仮面言いますねん、ちよつと友達とここで待ち合わせですねん。」

のぞみ「待ち合わせって、ここ私の部屋・・・」

ほか「勝手にそういう事するのはダメですよ。」

ドクロ仮面「ほんま悪いなあ、だ・れ・に・し・よ・う・か・な・！
！」

ドクロ仮面は舞を指差した。

舞「あつ、はい？」

ドクロ仮面「すみませんなあ、あんた襲わないとあいづらせへんねん。」

咲「舞を襲うの！？」

舞「突然そんな事言われても・・・きゃあ！！！」

するとドクロ仮面は突然舞を襲いだした。

ドクロ仮面「はははは！！待てい！！私の名はドクロ仮面！！今日からお前は私の××××になるのだ！！」

咲「舞！？」

のぞみ「××××って何？」

なぎさ「さあ？」

ほのか「冷静に考えないの!!」

舞「きゃああ!?! 誰か助けてええ!!!!」

すると

「待てええい!!」

ドクロ仮面「!?!」

扉から

「アオレンジャイ!!」

クローゼットから

「キレンジャイ!!」

窓から

「モモレンジャイ!!」

床から突き出して

「ムック!!」

天井から突き抜けて

「ガチャピン!!」

アオ「5人揃って!!」

「ゴレンジャイ!!」

ドクロ仮面「……」

のぞみ達「あれ? 戦隊?」

アオ「さあ!! 下がって!! 早く!!」

舞「ありがとう!!」

ドクロ仮面「お前らああ!!」

ビクッΣ

ドクロ仮面「座れええ!! 座れええ!!」

座るゴレンジャイ、なぎさ達も何故か座る。

ドクロ仮面「今日という今日はホンマに!!」

ドクロ仮面はヘルメットを床に投げつける。

ドクロ仮面「ヨオシ確認や、これはゴレンジャイやな、お前なんやねん?」

アオ「アオレンジャイ!!」

ドクロ仮面「お前は？」

キ「キレンジャイ!!」

ドクロ仮面「お前は？」

モモ「モモレンジャイ!!」

ドクロ仮面「お前ら2人なんや？」

ガチャピン「ガチャピン!!」

ムック「ムック!!」

床のヘルメットを2人に投げつける。

ドクロ仮面「ゴレンジャイあらへんや!!?できるかなちゃうで!!?」

するとアオレンジャイが

アオ「あの・・・あれなんですよ。」

ドクロ仮面「なんやねん？」

アオ「ドクロさんこの前・・・」

・・・

ドクロ仮面「何で出来へんねん!!?よしわかった!!この秘密戦隊

ゴレンジャーのDVD貸したるわ、見て勉強や!」

.....

アオ「って言ったじゃないですか？」

ドクロ仮面「言ったな。」

キ「それでわかったんですよ。」

ドクロ仮面「何がやねん？」

キ「僕は今まで色が成立してなかったと。」

ドクロ仮面「やっと気づいたか。」

モモ「それが、この結果です。」

ドクロ仮面「2人ちゃうやんけ!？ムックとガチャピンって!？」

すると

のぞみ「あの、大丈夫ですか？」

ドクロ仮面「ああ、すみませんあ・・・そや!」

なぎさ「えっ？」

ドクロ仮面「あんたらプリキュアだったな、こいつらに手本見してやってや。」

舞「突然言われても・・・」

咲「良いじゃん！！面白そう！！」

ほのか「困ってる時はお互い様ね。」

のぞみ「じゃあやろう！！」

ドクロ仮面「そや、名乗る時は色にレンジヤイつけてな。」

5人「はい！！」

・・・

ドクロ仮面「言ったわええけど誰襲えばええんやろ。」

すると

りん「のぞみ？うわっ、誰あんたら！？」

ドクロ仮面「しめた！！ちょっとこっち来てくれへんか？」

りん「えっ、ええ？」

説明中・・・

りん「つまり襲われると？」

ドクロ仮面「おりゃあ！！」

りん「うわっいきなり!？」

ドクロ仮面「はははは!! 私の名前はドクロ仮面!! 今日からお前は私の××××になるのだ!!」

りん「きゃああ!？誰か助けてええ!？」

すると

「待ちなさい!」

扉から

ブルーム「アカレンジヤイ!!」

クローゼットから

ドリーム「モモレンジヤイ!!」

窓から

ブラック「クロレンジヤイ!!」

床から

ホワイト「シロレンジヤイ!!」

天井から

イーグレット「シロレンジャイ!!」

ブルーム「5人揃って!!」

「ゴレンジャイ!!」

ドクロ仮面「……」

ドリーム「りんちゃん!!こっちこっち!!」

りん「ありがとう!!」

そして

ドクロ仮面「座れええ!!座れええ!!」

ビクッΣ

ドクロ仮面「お前らも所詮はそんな奴らか!？」

ドリーム「は、はあ。」

ドクロ仮面「よし確認しよか、お前何やねん?」

ブルーム「アカレンジャイ。」

ドクロ仮面「お前は?」

ドリーム「モモレンジャイ。」

ドクロ仮面「お前は？」

ブラック「クロレンジャイ。」

ドクロ仮面「まあ最近戦隊も黒とか白とか色々あるから許す、お前は？」

ホワイト「シロレンジャイ。」

ドクロ仮面「お前は？」

イーグレット「シロレンジャイ。」

「5人揃って！！ゴレンジャイ！！」

ドクロ仮面「違う違う！！違ああああう！！！！！！」

「ええ？」

ドクロ仮面「可笑的いやないか！？何で白が2人おんねん！！」

ブルーム「いや、これには深い訳があるんですよ。」

ドクロ仮面「なんや？」

ブルーム「私、黄色にもなれるんですよ。」

シュイン！！

ブライト「こんな風に。」

ドクロ仮面「おお、凄いやん。」

ブライト「でもイーグレットは・・・」

シュイン！

ウィンディ「変わっても白なんです・・・ぐすっ」

ドクロ仮面「ああ泣かんでええ！！そやな、お前やれや。」

りん「あたし！？」

ドリーム「りんちゃんも！！早く早く！！」

りん「ああ、うん。」

・・・

ドクロ仮面「はははは！！私の名前はドクロ仮面！！」

舞「きゃあ！？誰か助けてえええ！！」

「待ちなさい！！」

扉から

ルージュ「アカレンジャイ！！」

クローゼットから

ドリーム「モモレンジャイ!!」

窓から

ブラック「クロレンジャイ!!」

床から

ホワイト「シロレンジャイ!!」

天井から

ブルーム「アカレンジャイ!!」

「5人揃って!!ゴレンジャイ!!」

ドクロ仮面「何で赤が2人おんねええええええええええん!?!」

おわレンジャイ

その19 次回作

ターザン「さあて、プロローグが出来たぞ。」

士「やつと出番か。」

のぞみ「よし頑張るぞー!!」

ダイゴ「行くぞー!!」

プリキュアオールスターズ×仮面ライダーディケイド×ウルトラ8
兄弟 second the final episode

ターザン「にしてもまたプリキュアにディケイド、ウルトラマンを
書くなんてな。」

士「しかし何故俺達をコラボさせたんだ？」

ターザン「プリキュアを好きになった後、ディケイドやウルトラマ
ンとコラボした物は無いかと探してもなかったんだ、なら自分で作
ってしまおうと思ってるね。」

のぞみ「士先生、ダイゴさん、またよろしくね。」

ダイゴ「うん、一緒に頑張ろう。」

ターザン「よし燃えてきたー!!頑張るぞー!!」

その20 ガキ大将のリサイタル

響と奏は楽しそうにおしゃべりをしながら歩いていた。

響「んで、そのラーメンの麺がうどんであー!!」

奏「ワケわかんないよアハハハハハ！」

たわいのない会話、しかし

[illegible]

響、奏「ひやあああああああああ！？」」

どこからか響く騒音、どうやら近くの空き地にあるようだ。

響「な、何!？」

奏「行ってみよう。」

2人は空き地をこっそり覗く、そこには

「??? おおおれええはああああああジャイアアアアアアアアアアン!!!」

「……?」

「うわああああん！！ママアアア！！」

???「何とかしてよドラえもん!!!」

再び登場ドラえもん!!

ドラえもん「そんな事言われても」

響「か、奏・・・あの子達を助けなきゃ・・・」

奏「だ、ダメ・・・う、動けない・・・」

2人はすでに神経をやられてしまったようだ、するといきなりジャイアンの歌声がおさまる。

奏「あ、あれ？」

ドラえもん「みんな!!今のうちに裏山に逃げるんだ!!」

「わあああああ!!」

・・・

ドラえもん達は裏山に逃げた、彼らはのび太、しずか、スネ夫である。

しずか「通りすがりの人達にまで影響を及ぼすなんて」

響「ぜ、全然大丈夫だよ。」

のび太「ドラえもん何したの？」

ドラえもん「これでジャイアンの声を一定時間ならぬようにしたんだ。」

響「凄いねえ、そんなの持つてるんだ!!」

スネ夫「ドラえもんは未来から来たからね。」

奏「未来!?!」

ドラえもん「そうだよ、あっ!!そろそろ時間だよみんな!!」

のび太「本当だ!!帰ろう!!」

奏「またね。」

響「じゃあね!!」

ドラえもん達「バイバーイ!!」

おわり

その21 ナージャ

昔々百年くらい昔、これは世界を旅した女の子の物語。

ナージャ「こんにちは！私はナージャ・アップル・フィールド！
！小さな時生き別れたお母さんを探すためにダンデライオン一座つ
ていう世界を旅する劇団に入って今は踊り子をやってるの！！無事
にお母さんと再会できた後も劇団の踊り子として世界を旅してるん
だけど・・・」

響「ねえ誰に話してるの？」

ナージャ「あ、ごめんなさい・・・この人は北条響さん、なんか朝
目が覚めたら目の前にいたの。」

響「ていうかここどこ？」

ナージャ「ここはイギリスよ？」

響「ええ！？海外！？・・・ていうかあなたとは何故か初めて会っ
た気がしない。」

ナージャ「だっていつも一緒にいるようなものじゃない、喉で。」

響「の、喉？」

ナージャ「そう、喉。」

響「・・・まあ良いや、ていうか何で私イギリスなんか？」

ナージャ「さあ?」

響「さあつて・・・」

ナージャ「朝目覚めたらいたのはあなたじゃない、私は悪くないわよ?」

響「そ、そうだけど・・・」

ナージャ「とりあえず戻りたいって願えば戻れると思うけど・・・ねえ、私の踊り見ていかない?」

響「踊りかぁ・・・うん!!わかった!!」

ナージャ「ありがとう!!」

・・・

響「凄いねナージャ!!」

ナージャ「それほどでも・・・あれ?なんか響薄くなってるない?」

響「え?、わっ!?まさか戻れるのかな!」

ナージャ「良かったわね響!!!」

響「うん、もう少しナージャとお話したかったなあ。」

ナージャ「いつでも会えるわよ!!」

響「・・・そうだね！！ナージャ、今度私のピアノ伴奏で踊って！
」

ナージャ「わかったわ！！楽しみにしてる！！」

響「うわぁ嬉しい！！じゃあまた会おうね！！」

ナージャ「うん！！」

おわり

最終回　ありがとう

ターザン「ようこそ主人公達よ!!」

士「また呼び出して・・・何のようだ？」

のぞみ「そういえばこの小説終わっちゃうんだよね？」

ターザン「ああ、今まで沢山のご要望があって感謝の気持ちでいっぱいだ。」

ダイゴ「また新作を？」

ラブ「何々!?何書くの!？」

しんのすけ「まさかオラとナナコお姉さんの恋愛ラブストーリー?・
・あっはくん」

蒼牙「違うだろ。」

京太郎「はつきりと言ったなあ。」

ターザン「とりあえずはい!これ見て!!」

・・・

新作予告1

蒼牙とアイリは幸せな夫婦生活を送っていた・・・だが

蒼牙「・・・死ぬ?」

???「あなたの体はもう1ヶ月も保たない。」

アイリ「何なのよあんた達!？」

???「俺達は『シャドウ』・・・哀れな人類の救世主だ。」

蒼牙の前に現れる謎の集団『シャドウ』。

龍一「あいつらも仮面ライダーなのか!？」

榊原「やめろ蒼牙!!死にたいのか!？」

アイリ「やめて蒼牙!!」

仮面ライダーヤイバ・武藤蒼牙、死す

タクヤ「シャドウの親玉、お前が・・・過去のヤイバだと言っのか!？」

???「世界に絶望を与える。」

ヤイバの新フォーム誕生!!

劇場版 仮面ライダーヤイバ final 雷対影 時空大決戦

???「別に正義とか悪とか関係ねえよ、てめえらのやってる事がきにくわねえ。」

謎の仮面ライダー登場！？

・・・・・・・・

新作予告2

様々な世界から依頼者が！！
それを解決するのは・・・

のぞみ「けってゝい！！」

響「ここでやらなきゃ女がすたる！！」

天然ドジっこ・夢原のぞみ！！

成績不優秀スポーツ万能・北条響！！

のぞび探偵事務所
近日open！！

・・・・・・・・

ターザン「蒼牙、劇場版がけってゝいした。」

蒼牙「まじか。」

のぞみ「私主人公！？」

ダイゴ「前もね？」

ターザン「蒼牙、サリーgo!!」

蒼牙「G I G!!」

蒼牙は映画館に向かった!!

京太郎「とりあえず応援しますか。」

ターザン「そうだのぞみ、キュアモ貸して。」

のぞみ「?、はい。」

ターザン「新作ではプリキュアに変身禁止ね。」

のぞみ「ええ!?!なんで!?!」

ターザン「チートだから。」

しんのすけ「ねえねえ、そろそろ時間だゾ?」

ラブ「うん。」

ターザン「あ、では皆さん、沢山のご要望ありがとうございました
!!新作お楽しみに!!」

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3903o/>

超クロスオーバー物語!!

2011年7月19日11時06分発行